

○凹凸のある吹き付け面での目地は不要？



○根系による肩部浸食



○吹付け材のズリ落ち…適度に直尺アンカー（1m程度）を打設することの必要性



○法枠工…左側の岩塊が右側と同様の層準で剥離する恐れがあるとすれば、ピントのずれた対策と思われる…



○法枠工（アンカーなし）・・・設計段階で，“地すべり”であることを見逃した可能性がある（脚部側溝に明瞭な“末端押し出し”有り）



○法枠のせん断・・・珍現象



○地震後に、“法枠施工斜面は安全であった”といったコメントが発せられることがあるが、不安定土塊が滑落した斜面であり、当然である。むしろ、非被災斜面（ここでは隣接斜面）こそ対策を必要とする…



○安易（経費削減）に切り抜けようとするほど…

